

年内入試での教科学力テストはどうあるべきか

2026年度入学者選抜より、学校推薦型選抜や総合型選抜、いわゆる年内入試での教科学力テストが、多面的な評価と組み合わせることを条件に認められることになりました。これを受けて、大学によっては、自らが信じるより良い選抜を実現するために、この方針を利用した選抜の実施を公表し、高校側はこれについての対策を検討したり、さまざまな意見を表明したりしています。

選抜のあり方が国内外の社会の変化とともに変容していくことは、ごく自然なことで捉えられます。一方、この変容は、

単に選抜のあり方だけを捉えたものでなく、高校・大学教育の方向性も踏まえたものである必要があることは言うまでもありません。高校生活や公平性などに影響を与えることにも配慮する必要があるのかもしれません。

本ミニセミナーでは、これからの年内入試がどうあることが、高校生、高校、そして大学にとって有意義であるのかについて、大学、高校、研究者それぞれの立場の先生方により、建設的な議論を展開します。セミナーを通じ、教育のより良い方向づけに貢献できることを願っています。

2025年

11/20(木)

15:00～16:30



【参加費】 無料

【実施形態】 オンライン（Zoomウェビナー）

【対象】 大学入試の企画・業務に携わる教職員
関心を持つ高校・大学の教職員の方々

【申込期限】 2025年11月18日（火）

【申込方法】 上記の二次元コードまたは下記のアドレスよりお申し込みください。

<https://www.keinet.ne.jp/teacher/event/j-bridge/>

※Zoomでライブ配信を行います。

配信当日までに、お申し込みいただいたメールアドレス宛へ視聴URLをお知らせいたします。

※ご視聴の端末ごとにお申し込みください。

※お申し込みいただいた方には、後日アーカイブ動画（一部プログラムを除く）をご案内いたします。当日の視聴が難しい方、途中までしかご視聴いただけない方も是非お申し込みください。

経済・社会環境の急速な変化、2035年には100万人を割り込むことが見込まれる18歳人口の減少、文部科学省からの要請などを背景に、大学入学者選抜は大きな転換期を迎つつあります。そして選抜方法については、教科学力に重きを置いた仕組みから、教育改革同様に学力の三要素を踏まえた多面的・総合的な評価を行える仕組みへと移行しつつあります。

河合塾では2022年度から、大学入学者選抜改革についての基本セミナーを実施してきました。それに加え、2025年度から、入試での多面的・総合的な評価を支援するため、大学を取り巻くさまざまな課題とその解決のためのヒントや、タイムリーなテーマをお届けする「ミニセミナー」を開催しています。

プログラム	14:50	入室開始
	15:00	開会挨拶
	15:05	登壇者話題提供
	15:30	パネルディスカッション
	16:15	J-Bridge Systemご紹介
	16:30	閉会挨拶

※プログラムは予定です。内容や進行を一部変更することがございます。

ご登壇者

座長



川嶋 太津夫 先生

神戸大学・大阪大学 名誉教授
関西国際大学 客員教授

パネリスト（五十音順）



内田 隆志 先生

全国高等学校長協会 会長
東京都立三田高等学校 校長



中村 高康 先生

東京大学大学院教育学研究科 教授
大学入試学会 副理事長



脇田 貴文 先生

関西大学 入試センター 所長
社会学部 教授

【お問い合わせ先】 学校法人河合塾 教育研究開発部

【e-mail】 j-bridge-system@kawai-juku.ac.jp

【受付時間】 10:00～17:00（土・日曜・祝日を除く）

ご登壇者のプロフィールご紹介

座長



川嶋 太津夫 先生

神戸大学・大阪大学 名誉教授 関西国際大学 客員教授

1985年名古屋大学大学院教育学研究科博士後期課程単位修得退学、名古屋大学、神戸大学などを経て現職。第11期中央教育審議会臨時委員（大学分科会、質保証システム部会等）や、文部科学省「大学入試のあり方に関する検討会議」座長代理等も務め、現在は文部科学省大学入学者選抜協議会座長。（独）大学改革支援・学位授与機構運営委員会委員、大学機関別認証評価委員会委員。

パネリスト（五十音順）



内田 隆志 先生

全国高等学校長協会 会長 東京都立三田高等学校 校長

私立高校の勤務を経て、東京都立白鷗高校教諭。専門は理科「生物」。東京都立総合工科高校副校長、東京都教育庁地域教育支援部兼指導部主任指導主事、都立浅草高校校長などを経て、2023年4月から東京都立三田高校校長。2024年5月には全国高等学校長協会協会長に就任。



中村 高康 先生

東京大学大学院教育学研究科 教授 大学入試学会 副理事長

東京大学大学院教育学研究科 教授／東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。博士（教育学）。専門は、教育社会学。戦後日本の教育選抜のシステムと社会の変容、高校生の進路に関する量・質混合調査、社会階層と教育格差等の研究に取り組む。主な著書に、『暴走する能力主義』（ちくま新書 2018年）、『大学入試がわかる本』（編著、岩波書店 2020年）、『現場で使える教育社会学』（共編著、ミネルヴァ書房、2021年）、『高校入試と内申書』（編著、中央公論新社 2025年）など。



脇田 貴文 先生

関西大学 入試センター 所長 社会学部 教授

2008年関西大学社会学部心理学専攻に着任後、准教授を経て2018年より教授。入試に関しては、これまで学部入試主任、入試センター副所長を計12年務め、2024年10月より現職。専門は、心理計量学・テスト理論・QOL評価。所属学会は、日本心理学会、日本教育心理学会、日本テスト学会、大学入試学会（理事）。高校調査書の記載事項の検討、関西大学内での入試データの分析等を行っている。

河合塾 Kei-Net Plus 教育関係者のための情報サイト

本セミナーご登壇の内田校長先生による、高等教育レポートを公開しています。



全国高等学校長協会協会長インタビュー
～学力試験主の年内入試実施予定の大学に伝えたいこと～

年内入試での教科学カテストについて、内田校長にインタビューさせていただいたレポートです。あわせてご一読ください。

高等教育エッセイ・レポート
～みんなで考えるこれからの高等教育～



河合塾